

令和4年度市町村教育委員会教育長 ・教育委員研修会

部活動の地域移行について



令和5年1月25日(水)
県総合教育センター

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン (R4.12月 スポーツ・文化庁)

(1) 前文

- 学校部活動は、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が**自主的・自発的**に参加し、部活動顧問の指導の下、**学校教育の一環**として行われ、教師の献身的な支えにより、我が国のスポーツ・文化芸術振興を担ってきた。
- また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、**異年齢との交流**の中で、**生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築**を図り、学習意欲の向上や**自己肯定感、責任感、連帯感の涵養**に資するなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、**教育的意義**を有してきた。

●しかし、少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が厳しい状況にある。また、専門性や意思に関わらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなる。

●生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するためには、学校と地域との連携・協働により、学校部活動の在り方に関し速やかに改革に取り組み、生徒や保護者の負担に十分配慮しつつ、持続可能な活動環境を整備する必要がある。

●令和元年に、中央教育審議会や国会から、学校における働き方改革等の観点を含め、部活動を学校単位から地域単位の取組とするべきことが指摘された。令和2年に、スポーツ庁及び文化庁としても、令和5年度以降、休日の部活動の「段階的な地域移行」を図ることとした。

(2) 本ガイドラインの趣旨

- 学校部活動の地域移行は、「**地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。**」という意識の下で、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、**体験格差**を解消することを目指すものである。その際、**学校部活動の教育的意義**や**役割**については、地域クラブ活動においても**継承・発展**させ、さらに、地域での多様な体験や様々な世代との豊かな交流等を通じた学びなどの新しい価値が創出されるよう、**学校教育関係者等と必要な連携**を図りつつ、**発達段階やニーズ**に応じた多様な活動ができる環境を整えることが必要である。

(3) 概要

- 中学校の生徒の学校部活動及び地域クラブ活動を**主な対象**とする。
- 週当たり**2日以上**の**休養日**を設ける。(平日1日以上、休日1日以上、週末に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の日に振り替える)
- 活動時間【**平日2時間程度**、学校の休業日(学期中の週末を含む)は**3時間程度**】
- 少子化に伴い、単一学校のみで大会に参加できない場合は、複数校での**合同部活動**等の取組を推奨する。
- 体験型キャンプのような活動、レクリエーション的な活動、シーズン制のような複数の種目や分野を経験できる活動等、生徒の**志向や体力等の状況**に適した**スポーツ・文化芸術**に親しむ機会を確保する。
- 日本中体連は、**令和5年度**から地域のスポーツ団体等の活動に参加する中学生の全国中学校体育大会への参加を**承認**することを**決定**している。**都道府県中体連**においても**同様**な見直しを図られるよう必要な支援を行う。
- 日本中体連及び**都道府県中体連**は、適切な**外部指導者**がいる場合には校長が認めた上で引率を可能とするよう、**引率規程**を見直す。

部活動の意義や課題

(1) 部活動の意義(メリット)

<運動活動全般の内容>	<学校の部活動に特化した内容>
<ul style="list-style-type: none">■ 活動を通じた人間形成■ 望ましい人間関係の構築■ 自己実現の支援■ 技能や体力の向上	<ul style="list-style-type: none">■ 学校教育と連動■ 多様な生徒の活躍の場■ 安価・機会平等■ 文化芸術、スポーツの裾野拡大

(2) 部活動の課題

<生徒・保護者にとって>	<学校・教職員にとって>
<ul style="list-style-type: none">■ 生徒(部員)数の減少■ ニーズの多様化■ 過熱化■ 指導者が専門外■ 指導者の転勤■ 活動量の減少(ガイドラインの制約)	<ul style="list-style-type: none">■ 教職員(顧問)数の減少■ 複数顧問の配置困難■ 部活動数と顧問数のアンバランス■ 専門外指導者の精神的負担■ 働き方改革■ ワーク・ライフバランス

沖縄県の現状①

(1) 学校及び総合型地域スポーツクラブ

	令和元年	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校数	156校	152校	149校	149校
生徒数	48,382名	48,763名	49,716名	49,896名
部活動数	1,633部	1,420部	1,453部	1,374部
加入率	58.7%	57.7%	56.0%	53.3%
外部コーチ数	986名	900名	979名	978名
部活動指導員数	35名	53名	52名	90(予定)
合同チーム数	20チーム	コロナ感染拡大の為未調査	20チーム	25チーム
総合型地域 スポーツクラブ数	64クラブ [※]	64クラブ [※]	63クラブ [※]	63クラブ [※] (R4.8月時点)

※参考文献

- ・生徒数、学校数：学校基本統計(沖縄県企画部統計課)
- ・部活動、外部コーチ数：沖縄県中体連「令和4年度 会報」

沖縄県の現状②

(2) クラブチーム・総合型地域スポーツクラブの費用(参考)

競技種目	名称	月謝 ※入会金・年会費	保険	登録料
サッカー	ヴィクサーレ	10,000円	1,000円未満	1,600円
サッカー	F C琉球	13,000円 ※13,000円(入会金) ※13,000円(年会費)	年会費込み	年会費込み
サッカー	CASA	11,000円 ※10,000円(年会費)	月謝込み	月謝込み
バスケットボール	琉球ゴールデン キングス	4,980円 ※11,000円(入会金) ※1,100円(年会費)	年会費込み	確認中
陸上競技	アスリート工房	6,600円 ※5,400円(入会金)	入会金込み	1,500円 ※協会年間登録料

※ 令和4年8月確認

「沖縄県運動部活動の地域移行プロジェクトR4」

【取組ロードマップ】(案)

2022/11/17

		8月	9月	10月	11月	12月	R5/1月	2月	3月			
沖縄県教育委員会	検討会議	検討 第一回 会議内容(8.18)【県立図書館】 ・地域移行の経緯 ・県の方向性 ・推進計画の説明 ・ロードマップ		検討 第二回 会議内容(10.26)【県立総合教育センター】 ・モデルパターンの検討・協議 ・諸課題における検討・協議 ・実態調査アンケート取組状況 ・実践事例紹介等				検討 第三回 会議内容(2.10)【未定】 ・先進県事例報告 ・実態調査アンケート報告 ・モデルパターン検討、決定			画策 第一次 策定・周知	
	事務局会	会議内容(9.16) ・講演者等の選定 ・役割分担 ・実態調査内容の検討	事務局 第一回	事務局 第二回 会議内容(10.21) ・検討会議資料の検討 ・進捗状況の確認 ・講演会の確認		事務局 第三回 会議内容(12.14) ・モデルパターンの検討 ・講演会まとめ確認 ・実態調査アンケート取組状況		事務局 第四回 会議内容(2.2) ・検討会議資料の検討 ・モデルパターンの検討			事務局 第五回	
	周知説明会	①各教育事務所へ 依頼文発送 ②各市町村へ 募集依頼文発送	「地域移行に関する説明会」 ※順次開催予定				☆3回(①国頭・中頭、②那覇・島尻、③宮古・八重山)。 ☆各市町村教育委員会については依頼を受けて実施する。 ☆その他依頼があれば調整して極力対応する。					
	シンポジウム	会場選定、予約・決定 実施要項作成 講演者・シンジストの調整、 決定、依頼	・実施要項起草 ・事務局員役割分担 の調整 ・講演及びコーディネ-	関係諸団体へ 周知公文発送	講演会・シン	演題「誰一人取り残さない、沖縄らしい優しい部活動の実現に向けて」 元 西九州大学 准教授 渡瀬浩介 氏 シンポジウム：テーマ「未来の沖縄型部活動のカタチ」～持続可能な地域ブカツを目指して～ ◎日時：令和4年11月15日(火)13時～ ◎場所：総合教育センター【多目的棟】						
	アンケート	○県事務局、県中体連調査研究部、スポーツ振興課で連携し、質問内容、調査対象、実施時期、集計方法、考察、報告等の業務を分担して行う。										
		県事務局、県中体連調査研究部、スポーツ振興課で連携し、実態調査アンケート(質問内容や対象等)の検	【第1回実態調査】 ・関係者への送付 ・調査期間	【第1回実態調査】 ・集計 ・考察、まとめ等		【第2回実態調査】 質問内容等の検討及	【第1回実態調査】 ・関係者への送付	【第2回実態調査】 ・集計 ・考察、まとめ等				
	兼職兼業	○兼職兼業：国による許可の対象となり得る例を参考にしながら人事課との情報共有し、運用に係る考え方を整理する。										
		○総括コーディネータ配置(県：1名、6地区：6名)に向けて箇所新規事業へ計上予定。						令和5年度コーディネーター配置支援事業公募・申請手続き				
	地域推進事業	拠点校選定及び決定、 学校説明会等の実施	拠点校における実践研究(うるま市・糸満市) スポーツ庁からの調査・報告物等への対応						成果報告書作成・提出			令和5年度地域運動部活動推進事業の公募・申請手続き

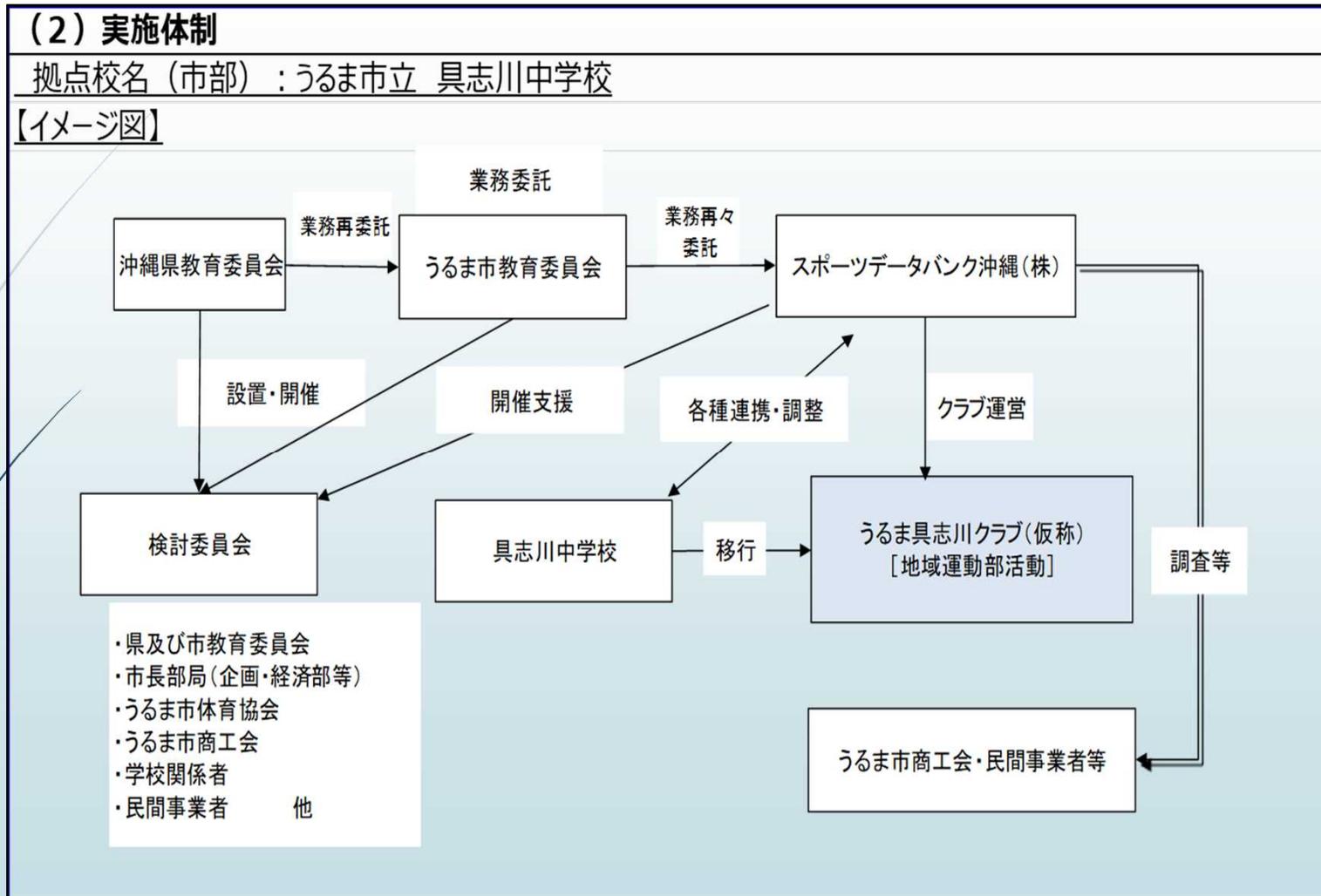
令和3年度 地域運動部活動推進事業【沖縄県】①

本県では、国の事業である地域運動部活動推進事業について、令和3年度より受託し、うるま市、糸満市にて実践研究を実施してしています。うるま市においては具志川中学校（バドミントン部）、糸満市においては糸満中学校(ソフトテニス部・卓球部・バドミントン部)にて実施しました。

(1) 令和3年度実践研究の成果と課題及び令和4年度の進捗状況について

- 新型コロナウイルスの影響により、部活動の休止期間があったため、実施期間が短期間に留まったが、地域の受け皿の問題、施設の問題、受益者負担の問題等の諸課題について、関係諸機関と検討会議にて意見交換ができた。
- 令和4年度も令和3年度に引き続き、うるま市、糸満市が決定しており、拠点校における取組としては、民間企業（スポーツデータバンク沖縄）を活用しての人材マッチングや、持続可能な仕組みづくりのための調査業務等を行う予定です。
- 今後、その実践研究の成果と課題をもとに各関係機関と検討を重ね、部活動の地域移行に取り組んでいきます。

地域運動部活動推進事業【うるま市教育委員会】②



地域運動部活動推進事業【うるま市教育委員会】③

(3) 実践研究の取組内容

		運営団体の確保方法・経緯	
運営団体	スポーツデータバンク沖縄株式会社	当該企業は、2017年より市内学校部活動のあり方について検討や実証を行っており、教師の働き方改革を目的に、部活動に対して外部指導者のマッチングや活動運営、コーディネーターなどに従事している。また、持続的な活動を目指すために、民間資金の活用した取り組みや仕組み構築などを行っており、本市とは数年にわたり部活動のあり方検討を行っている経緯から、地域移行化についても連携した取り組みを行っている。	
		課題・困難	対策・工夫
	<ul style="list-style-type: none"> • 現段階では、組織・団体との関係がとれていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市町村の担当部局と各団体と定期的な会議を実施。 	
指導者		課題・困難	対策・工夫
	<ul style="list-style-type: none"> • 学校現場のニーズに沿った指導者の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 市の他事業で指導している外部指導者を休日の地域部活動指導員として依頼をしている。 	

(4) 実践研究の成果

実践研究で直面した課題

- コロナ感染症対策として部活動の制限があり、十分な活動が行えなかった。

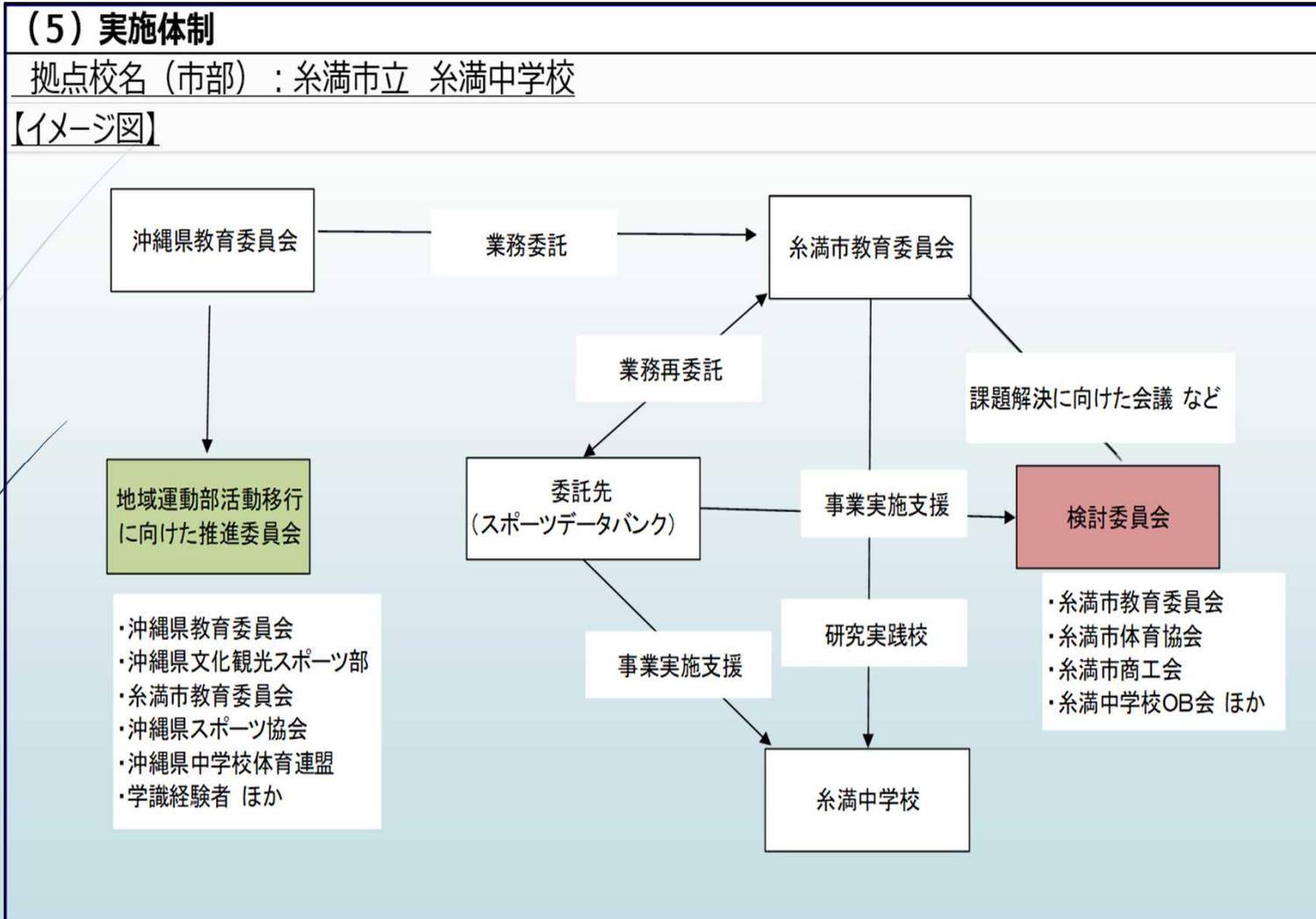
課題に対する対応策・工夫

- リモート等を活用し、活動ができないか模索した。

今後に向けた方針・方向性

- 教育委員会、学校、保護者、その他関係諸団体へ理解や周知の促進。
- 持続可能な運営が行える団体の確保。
- 休日の部活動の地域移行のためには、平日の学校部活動との円滑な連携も重要。

地域運動部活動推進事業【糸満市教育委員会】④



地域運動部活動推進事業【糸満市教育委員会】⑤

(6) 実践研究の取組内容

		運営団体の確保方法・経緯	
運営団体	糸満市教育委員会 ※スポーツデータ バンク沖縄(株)	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度に、スポーツ庁の運動部活動の在り方に関する調査研究事業に関わった経緯があり、教育委員会からの推薦を受けたものである。 ※指導者の人材派遣業務を担当している。 	
	課題・困難	対策・工夫	
	<ul style="list-style-type: none"> 中学校が6校約2千名以上の生徒の活動場所と人材の不足が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は市体育協会や関係団体等と連携を図り、専門的指導ができる人材を配置する等の方法が必要。 	
指導者	課題・困難	対策・工夫	
	<ul style="list-style-type: none"> ライセンス取得者が不足、専門的な指導者の人材が不足 	<ul style="list-style-type: none"> 市体育協会や関係団体等と連携を図り、人材の発掘に取り組む。市体協と連携し研修会等を実施。 	

(7) 実践研究の成果

実践研究で直面した課題

- 学校長と学校職員、さらに保護者の理解が得られたことで、説明会等をスムーズに行うことができた。
- 学校施設を使用するにあたり、休日の活動時の施錠管理が課題となった（顧問が休めず、出勤することになる）。

課題に対する対応策・工夫

- 教育委員会と学校で合意書を交わしスペアキーを作成して、教育委員会が契約した指導者の責任のもと管理を行った。

今後に向けた方針・方向性

- 学校職員や保護者に丁寧に説明することが重要だと感じた。
- 関係機関との連携が、今後は更に重要だと考える。

部活動の地域連携や地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備

令和5年度予算額（案） 28億円
 （前年度予算額） 18億円
 令和4年度第2次補正予算額 19億円



方向性・目指す姿

- 少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保。学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。
- 自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出。
- 地域の実情に応じた持続可能で多様なスポーツ・文化芸術環境を整備し、多様な体験機会を確保。

「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消。

事業内容

I. 部活動の地域移行等に向けた実証事業 11億円

関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備、指導者の確保、参加費用負担への支援等に関する実証事業を実施し、国において事業成果の普及に努めるとともに、全国的な取組を推進する。

(1) 部活動の地域移行に向けた実証事業（取組例）

<p>体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係団体・市区町村等との連絡調整 ○ コーディネーターの配置、地域学校協働活動推進員等との連携の在り方 ○ 運営団体・実施主体の体制整備や質の確保 	<p>指導者の質の保障・量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人材の発掘・マッチング、配置 ○ 研修、資格取得促進 ○ 平日・休日の一貫指導 	<p>関係団体・分野との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ・文化芸術団体、大学、企業等 ○ スポーツ推進委員 ○ まちづくり・地域公共交通
<p>面的・広域的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの部活動の移行 ○ 市区町村等を超えた取組 	<p>内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複数種目、シーズン制 ○ 体験型キャンプ ○ レクリエーション的活動 	<p>参加費用負担支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 困窮世帯の支援 ○ 費用負担の在り方
<p>学校施設の活用等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効果的な活用や管理方法 		

(2) 学校の合同部活動・ICT活用や吹奏楽部等の取組に関する実証事業

II. 中学校における部活動指導員の配置支援 14億円

各学校や拠点校に部活動指導員を配置し、教師に代わる指導や大会引率を担うことにより、生徒のニーズを踏まえた充実した活動とする。（補助割合：国1/3、都道府県1/3、市区町村1/3）※1

部活動指導員の配置を充実【12,552人（運動部：10,500人、文化部：2,052人）】

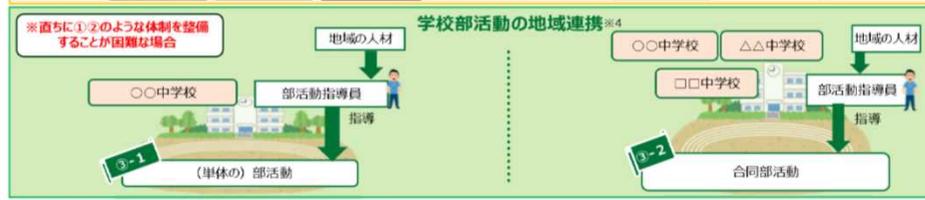
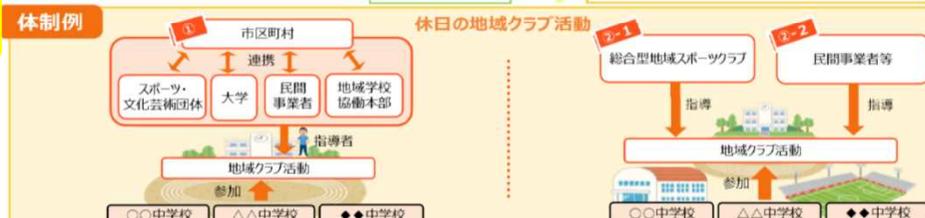
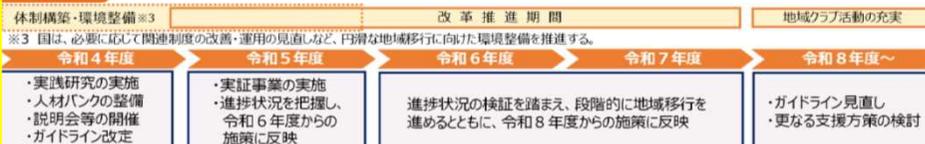
III. 地域における新たなスポーツ環境の構築等 3億円

上記の施策を支える新たなスポーツ環境の構築のため、以下の取組を実施。

- ・公立中学校の施設の整備・改修を支援（用具の保管のための倉庫の設置、スマートロックの設置に伴う扉の改修等）。【新規】
- ・指導者養成のための講習会等の開催や資格制度の改革等。
- ・多様なニーズに対応した中学生年代の都道府県大会等の創設・開催を支援。

※1 補助割合について、都道府県又は指定都市の場合は、国1/3、都道府県・指定都市2/3。
 ※2 本資料における「スポーツ」には障害者スポーツを、「文化芸術」には、障害者芸術を、「中学校」には特別支援学校中学部等を含む。体制例は、あくまでも一例である。

方針



※4 コミュニティスクール（学校運営協議会）等の仕組みも活用

ご静聴ありがとうございました。

